

した。自分がピンチになった時や、モヤモヤしたときに、昔の人はどうやって感情を整理したんだろうと調べることもあります。

**高島:**好きな歌、心にずっと残っている一首はありますか？

**吉岡:**「長らへば またこのごろや しのばれむ 憂しと見し世ぞ 今は恋しき」という和歌があるのですが、「人生に辛いこともきつとあるけど、長く生きていたらなんとかなるよ」というポジティブな和歌です。この一首に励まされ、「よし、なんとかなる。なんとかなる。」と切り抜けられたことがあります。

他にも古典には、恋愛や家族愛といった今も昔も変わらないものが多くあり、知っていたら好きになると思います。

**高島:**素敵なエピソードですね。私がいまの教育の課題だと考えているのが、「なぜ学ぶのか」ほとんど誰も納得せずに学んでいることです。数学や理科もそうですが、古典はもっと分かりづらいですね。吉岡さんのように、古典で描かれている心の機微と今の自分を繋げられれば、古典にももっと興味が湧いてくるはず。学びへの意欲を高められるような教育を届けたいと改めて思いました。

### —目指すリーダー像は？

**高島:**リーダーが下す意思決定は、賛否が51対49で僅差の場合にどちらを選ぶかという決断がほとんどです。いかにエビデンスに基づく意思決定ができるか、そしてその意思決定に納得いただけるよう対話を尽くすかが重要だと考えています。

**吉岡:** SNSなどでかなり発信されていますよね。

**高島:**見ていただきありがとうございます。対話集會も、信頼関係を積み重ねる一助になればと開催しています。就任して半年あまり、改めて感じたのは市役所はアピールが苦手だということ。実はこんなことも考えて政策を決めている、といった過程も含めてお伝えしたいと思っています。

**吉岡:**私は、アナウンサーを目指していることもあり、懂れているキャスターの情報を伝えた後に語り掛ける「考えてみませんか？」という言葉が素敵だなと思っていて、社会問題を一緒に考えてもらえるような伝え方や言葉かけの方法を学ばせていただいています。少し大きいことを言いますが、これから若い世代で日本を変えていけたらいいなと思っているんです。そのためには社会問題について自分ごととして考えることが大事だと。一人ひとりが問題に向き合ってできることを実践していく。そうやってこれから長い年月を経て徐々に日本や社会を変えていけたらいいなと思います。

### —これから芦屋がどのようになってほしいか

**吉岡:**若い世代が増え、活気がある街になってほしいです。若者が大人になって街の外

### 特集記事撮影地

## 旧芦屋郵便局電話事務室(芦屋モノリス)

通信省芦屋郵便局電話事務室として1929(昭和4)年に竣工した建物です。レトロモダンな外観は当時のデザインのまま。2017(平成29)年には国の登録有形文化財に登録されました。

現在はレストラン・結婚会場「芦屋モノリス」として活用されています。



芦屋モノリス(大樹町5-23)

でチャレンジしても「また帰ってきたい」と思ってもらえるような街になれば嬉しいです。ミス日本として神奈川県三浦国際市民マラソンに参加させていただきました。大きなスポーツ行事には多くの方が来てくださるので、そういったイベントを実施し、芦屋のきれいな街や自然に触れてもらって、芦屋のファンが増えていけばいいと思います。

**高島:**「いずれ帰ってきたい」と思える街に、という点にはとても共感します。若い世代を繋ぎとめるのは難しいし、やるべきではない。



奥池

むしろ、芦屋で良い教育を受けて広い世界に羽ばたいてほしい。大学進学や就職を機に大きな舞台で挑戦する人が多いことは、誇って良いと思っています。ただ、その方々が子育てをするときに「自分が生まれ育った場所が芦屋でよかったな」「子どもを育てるなら芦屋に帰ろうかな」と思っていたらいいような街にしたいと考えています。

**吉岡:**もし芦屋をでることになったとしても、いずれ芦屋に帰ってきたいと思っています！

**高島:**ぜひ帰ってきてくださいね！



芦屋市長

**高島 峻輔** たかしま りょうすけ

芦屋市長。1997年2月生まれ。灘中学校・高等学校卒業、東京大学中退、ハーバード大学卒業。2023年4月の芦屋市長選挙で史上最年少の市長に。

### 【市民の皆さまへ】

対話を中心としたまちづくりを掲げ、就任から8カ月が経ちました。対話集會や市内のイベント等で声を届けてくださった皆さま、本当にありがとうございました。その想いを形にする第一歩が、初めての予算です。市民の方々から特に多く頂いたお声を中心に、予算策定を進めています。

教育改革では、「ちよどの教育」の実現に向けて、教員の働き方改革と不登校対策を重視します。子どもたち一人ひとりに合った学びを公立学校で実現するために、改革の基盤づくりを目指します。さらに、就任後最初に着手した「JR芦屋駅南地区再開発事業」は、人件費や資材費の高騰など厳しい社会情勢の中ですが、一刻も早い交通課題解決のため、着実に進めてまいります。本年も、さまざまな場面でぜひお声がけください。

